



## 洋画の創作と振興

さ とう ふみ お  
佐 藤 文 雄

(82歳)

住所

東京都

東京美術学校（現東京芸大）卒業後、中央画壇で活躍し、昭和5年帝展に初入選以来、新世紀美術展等に数多くの作品を発表して、黒田清輝記念賞、文部大臣賞を受賞し、洋画家としての地位を確立した。

また、昭和37年から新世紀美術協会運営委員として、後進の指導や美術の振興にあたる一方、県内で個展を開き、本県美術界に中央美術界の息吹きを伝えるとともに、秋田県立博物館、秋田県立小児療育センター、秋田市文化会館等の公共施設に作品を寄贈するなど本県美術文化の向上に大きく貢献している。



## スポーツと 地方自治の振興

さ とう やす ひで  
佐 藤 育 秀

(75歳)

住所

大館市

昭和28年秋田県スキー大会参与として、スポーツ界に接触以来、特に秋田県ウェイト・リフティング協会長として本県ウェイト・リフティングの水準を全国のトップレベルまで高め、国体4連勝に導くなど、ウェイト・リフティングの発展に尽力している。

また、昭和46年から秋田県体育協会副会長として、秋田県スポーツ界のレベルの向上と県民スポーツの普及振興に大きく貢献している。

このほか、稲庭町長、秋田県議会議長を務めるなど、地方自治体の運営と民主化に尽力するとともに、長年にわたり消防団長、秋田県調停委員及び森林組合長等として地方自治の振興にも貢献している。



## 産業と地方自治の振興

た ぐち てつ そう  
田 口 鉄 蔵

(74歳)

住所

仙北郡角館町

昭和36年以來、秋田県商工会連合会理事、会長として、全国に先駆けて、県内の全市町村に商工会の設立を実現させたほか、秋田県商工会館の建設促進委員長としてその完成に尽力し、業界の基盤づくりとその充実強化に努めるとともに、昭和51年に秋田県火災共済(協)を設立し、県内中小企業者の経営の安定を図るなど、本県の経済、商工業の発展に大きく貢献している。

また、このほか、秋田県議会議長、全国議長会地方制度委員会委員長を務めるなど、地方自治の振興にも貢献した。



## 樺細工の振興と 後継者の育成

む 武 の 野 とう 十 いち 一

(73歳)

住所

仙北郡角館町

昭和3年から樺細工の製作にとりくみ、樺独特の縞文様入帯止めや、煙草ケース、装身具等を新作、考案するとともに、角館樺工芸製作者協会、角館工芸協同組合、秋田県工芸家協会の役員を歴任し、業界の発展と樺細工の保存、継承に大きく貢献している。

また、昭和51年には、伝統工芸師に認定されるとともに、国の伝統的工芸品産業振興事業の後継者育成研修講師、角館中学校樺細工クラブ講師を務めるなど、後進の指導育成にも尽力している。



## 地方文化の向上と 国際交流の振興

なか やす まさ え  
中 安 正 衛

(73歳)

住所

秋田市

昭和48年、秋田テレビ(株)代表取締役社長に就任以来、放送文化の向上に尽力されているほか、報道を通じて地域社会の発展に貢献されるとともに、秋田県芸術選奨選考委員会委員長、ボーイスカウト秋田連盟副連盟長、秋田リトルリーグ会長、秋田ロータリークラブ会長等多くの要職に就かれ、本県文化の向上に貢献している。

さらに、海外交流、国際親善に努め、「AKT少年の船」の実施ではグアム島政府から「グアム名誉市民親善大使」に任命され、また、本県と中華人民共和国甘粛省との友好提携について、その実現に尽力するとともに、特別取材班を派遣しシルクロードの芸術や文化遺産を県民に紹介するなど国際交流にも貢献している。



## 歴史学の研究と振興

にい の なお よし  
新 野 直 吉

(61歳)

住所

秋田市

昭和28年、秋田大学に赴任以来、教授、同大学附属中学校長、同大学学生部長の要職に就かれ、学校運営、教育（歴史学）の振興に尽されるとともに多くの教育者の育成に努めている。

また、専門の歴史学の研究においては、実証的、かつ精緻な研究で日本古代史研究の第一人者として活躍され、特に「日本古代における地方制度の諸問題に関する研究」は高い評価を受け、東北大学より文学博士の学位を受けている。

さらに、秋田県弘田柵跡調査事務所顧問として調査指導にあたり、弘田柵跡の解明に大きく寄与したほか、秋田県コミュニティーカレッジ・カリキュラム委員、秋田県教育史編集顧問として本県教育文化の振興発展に大きく貢献している。